

果樹病虫害発生予察調査結果（7／10調査分）  
（三条、加茂、田上地域）

7月10日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

**（ 共 通 ）**

- 雨天予報が続いており、大雨になることも懸念される状況です。降雨後の病虫害対策の観点からも、園地の排水状況を再確認しましょう。
- ナシヒメシクイの誘殺数が前年同時期よりも多くなっています。モモでは果実被害や新梢の芯折れも確認されていますので、JAの防除暦や情報を参考に防除を実施し、被害部位は除去しましょう。
- 一部で、ハダニ類の発生が確認されています。草刈り後、樹上に上がる数が増えるので、寄生状況を観察した上で発生初期に防除を実施しましょう。

**（ ナ シ ）**

調査地点ごとに5新梢、100果を調査しました。

- セイヨウナシ褐色斑点病は発生が増加しており、多発生している園地もあります。り病部位は摘み取って園外で処分し、感染拡大を防止しましょう。
- 一部で、ニセナシサビダニによる被害葉が確認されています。防除適期を過ぎており、効果が望めないことから、多発園では来春の防除で被害を抑制しましょう。
- 一部で、アブラムシ類の寄生やアザミウマ類による被害が確認されています。発生が多い場合は、寄生・被害部位の除去や薬剤散布を実施しましょう。
- 一部で、花腐細菌病の発生が確認されています。り病枝はせん除し、園外で処分しましょう。

- 一部で、黒星病の発生が確認されています。発生量は少ないものの、雨天が続いていることから感染危険度は高くなると考えられます。果実肥大後期には果実感染しやすくなることから、防除間隔が空かないよう注意するとともに、り病部位の除去で感染拡大を防ぎましょう。

### (モ モ)

調査地点ごとに5新梢、100果を調査しました。

- せん孔細菌病は全調査園地において、新梢葉の一部への発病が確認され、果実発病も一部で確認されています。収穫期を迎える品種も多くなるためドリフト対策を講じるとともに、防風網の点検やり病部位の除去も実施しましょう。
- 今回調査では灰星病等の果実腐敗病害は確認されませんでした。収穫間際の被害に注意し、JAの「令和6年度桃収穫・管理日程表」を参考に収穫前防除を実施しましょう。

### (ブドウ)

調査地点ごとに100葉、100果房を調査しました。

- 一部で、褐斑病発病葉が確認され、アザミウマ類による果粒への被害が確認された園地もあります。適期防除や被害部位の除去で被害拡大を防止しましょう。

次回調査は7月25日(木)を予定しています。

担当 : 中越支所 果樹共済係
TEL : 0258-36-8105
FAX : 0258-34-8020